

ル、爲地區的分散ヲ遂クヘキコト經農青社今後ノ運動ニ付協議シ、之ガ分散ノ先驅トシテ同年二月二十五日頃被告入田代及被告人星野ノ妻ノ兩名下阪シ、尙引續キ被告人星野、同翌月、同和佐田等モ下阪ノ豫定ニテ其ノ準備中、同年四月上旬竊盜事件ニテ檢舉セラレ、遂ニ農青社ハ同年九月二十七日附解取聲明書ヲ配付シテ發展の解消ヲ餘儀ナクスルニ至リ

以テ被告人鈴木、同宮崎、同星野ハ無政府主義結社農村青年社ヲ組織シ、被告人八木、同星月、同田代、同和佐田ハ之ニ加入シ且何レモ其ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタルモノナリ

裁判用紙

裁判所

ナリ

乙

第一被告人星野準二ハ治安維持法違反事件ニテ昭和十年十二月二十四日檢事セラレタル二見敏男トハ、昭和三年頃ヨリ相知リ當時同志トシテ親シキ間柄ナリシトコロ、昭和九年一月同人トノ會談並昭和十年八月日本無政府共產黨テレーゼノ送付ニヨリ右二見等カ日本無政府共產黨ヲ組織シ之ガ活動中ナルヲ了知シ居リタルカ、昭和十年十一月十二日突然同人カ自己ノ勸先ナル名古屋市東區千種町西森野縣物産販賣幹旋所ニ來リ面會ヲ求メ、警察當局ノ

追求ヲ受ケ居ルニ付一時匿ヒ吳レトノ依頼ヲ受クルヤ、二見カ右黨ノ活動ヲ爲シ治安維持法違反事件ノ犯人トシテ逃走中ナルコトヲ知リタルモ、年來ノ友人トシテ之ヲ拒ムニ忍ビス、遂ニ同人ノ檢舉ヲ免レシムル爲同日及翌十二日ノ二日間同市千種町南仲田二十一番地高野傳治方ニ同人ヲ宿泊セシメ以テ匿置シ

第二被告人田代三郎ハ右二見敏男トハ昭和五年頃被告人星野ヲ介シ相知リタルモノナルトコロ、昭和十年十一月十四日突然二見カ長野市ニ被告人ヲ防ネ、名古屋市星野ノ威ニ屈リタルモ危險トナリタルニ付數日匿ヒ吳レトノ依頼ヲ受クルヤ、其ノ前日頃新聞紙上ニテ二見等カ日本無政府共產黨ヲ組織シ、高田農商銀行ヲ襲撃シ、治安維持法違反等ノ事件ノ犯人トシテ逃走中ナルコトヲ了知シタルモ、右依頼ヲ拒ミ難ク、遂ニ同人ノ檢舉ヲ免レシムル爲同日ヨリ同月二十四日迄ノ間長野市往生寺田中喜一郎方ニ同人ヲ下宿セシメ以テ匿置シ、

裁判用紙

裁判所

タルモノナリ

仍テ先ツ甲ノ事實ニ付證據ヲ按スルニ

判示冒頭記載ノ事實中被告人等ノ經歷並受刑等ニ關スル事實ハ

各被告人ノ當公廷ニ於ケル右被告人等ノ關係部分ニ付夫々判
示同趣旨ノ供述ニ依リ

判示冒頭記載ノ事實中被告人等ノ情事シ居リタル無政府主義
カ判示ノ如キ社會革命思想ナルコトハ

(一)被告人鈴木靖之ニ對スル豫審第四回訊問調書中判示同趣旨
ノ供述記載

(二)被告人宮崎晃ニ對スル豫審第三、四回訊問調書ヲ通シ判示
同趣旨ノ供述記載

(三)被告人星野準二ニ對スル豫審第三、四回訊問調書ヲ通シ判
示同趣旨ノ供述記載

裁判用紙

(四)被告人八木あき、同望月治郎、同田代鏡三郎及和佐田芳雄

ニ對スル各豫審第三回訊問調書中夫々判示同趣旨ノ供述記
載

アルニ依リ各之ヲ認メ

判示第一ノ事實ハ

(一)被告人宮崎晃ニ對スル豫審第四、五回訊問調書ヲ通シ、自
分ハ判示ノ如キ事情ニ依リ無政府主義ニ依ル新ナル運動ノ
展開ヲ農村ニ求メ、農村ニ無政府主義運動ヲ起ス具体的方
針ヲ「農民に訴ふ」ト題シ執筆シ、之ヲ「黒旗」昭和六年
二月號ニ掲載シ、判示ノ如キ新ナル革命運動ノ方針ヲ樹立

裁判用紙

裁判用紙

提唱シタリ、而シテ右「農民に訴ふ」ヲ發表スル以前昭和
五年十二月頃在京アナーキスト大會ニ於テ鈴木靖之カ京城
縣下ニ於ケル農村ノ窮迫セル實情ヲ述ヘタル上農村ニハ派
生的ニアナーキズム運動ニヨル自給自足ノ生活力行ハレ居
リ、直接行動ヲ第二義トシタル農村運動ノ發展性アルコト
ヲ披歴シタルトコロ、無賴ノ前田一派カ反對シタルコトヲ
當時内線ノ要八木あきヨリ聞キ、鈴木カ大体反黒旗的傾向
ヲ持チ居ル事及農村出身者ニシテノ事情ニ通シ、農村運
動ニ着目シ居ル事ヲ知り、私ノ意見ト合致スルモノカアリ
タル故、同人ト直接會ヒ意見ヲ交換シ農村運動ニ共力セン
トノ考ヲ持チ居リタリ、然ルトコロ星野準二カ昭和六年一
月頃單身上京シ、私ノ家ニ寄寓中ナリシニ依リ右「黒旗」
二月號ノ「農民に訴ふ」ヲ示シ、此ノ方針ヲ全國同志ニ啓
誘シ贊成ヲ得テ連絡シ農村ヲ中心ニアナーキズム革命ニヨ
ル自田コンミュンニ進出ノ爲共々提攜實踐活動ヲ爲スヘキ事
ヲ提唱シタル處、星野モ之ニ賛成シ「農民に訴ふ」ニハ具
体的ナル運動方針カ示シアリ、現在ノ社會機構内ニ於テ、
自給自足、自治協同ハ農村ニシテ始メテ實施シ得ヘク、此
ノ方針アリテ始メテ農村ニ發展性アリトノ意見ニシテ、星
野ト鈴木トハ豫テ親シキ同志ナルコトハ知り居リタル故、

「農民に訴ふ」ノ方針ニ基キ農村革命運動ヲ起スニ付鈴木ノ意見ヲ求ムル事ヲ相談シタルトコロ、星野モ賛成致シ、昭和六年二月十二日頃判示場所ニテ鈴木、星野、私及八木カ從屬的ニ参加シ、四人ニテ判示ノ如キ農村青年社ノ基本案地事項等ヲ協議シタリ、而シテ結局其ノ日ノ協議ハアナーキズム革命ヲ目的トシ、自主分散組織ニヨル半非合法ノ政治結社ヲ結成シ、農村ヲ中心ニアナーキズム思想ヲ啓蒙シ農民ニ自給自足、自治協同ヲ現實生活ニ反映セシメツツ將來協同社會タル自由コンミュンヲ建設スル爲ニ活動スル事ニ一決致シタルモノニシテ、其ノ後同月二十日頃鈴木、星野、私、八木及笠月治郎ノ五名會合シ我々ノ結社ヲ農村青年社、略稱ヲ農青社ト決定シ又其ノ機關紙ヲ農村青年、略稱ヲ農青ト決定シタル旨ノ供述記載

裁判用紙

裁判所

(二) 被告人宮崎見ニ對スル豫審第六回訊問調查書中農村青年社ハ私等カ理想社會トシテ憧憬シ居ル自由コンミュンノ社會ヲ建設セン爲ニ成立シタル政治結社ニシテ、其ノ建設ニ際リテハ現在ノ社會構成ト異リタル社會ヲ實現スルモノナル故革命ヲ行フ譯ニテ、即チ革命完行ノ實際團體トシテ生レタルモノナリ、端的ニ甲セハ農青社ハ自由コンミュン建設ヲ目的トシタルモノナリ、而シテ自由コンミュンハ自由村落

裁判用紙

裁判所

又ハ協同村落トモ申シ、人的、經濟的、地理的條件ノ下ニ區劃サレタル一小社會ニシテ、現時ノ行政區劃ニ例ヲ採レハ、一村落カ夫レニ該當スル場合モアリ、數村落又ハ一町ト數村落即チ郡カ夫レニ該當スル場合モアリ、而シテ自由コンミュン社會組織ハ政治的ニハ自治協同、經濟的ニハ自給自足ノ社會ニシテ、從テ自由コンミュンノ建設ヲ現時ノ我國家組織ニ於テ行ヘハ、即チ天皇制ノ廢止トナリ、私有財產制度ノ否定トナル譯ニシテ、右天皇制ノ廢止ト云フ事ハ權力ヲ否定シ、支配ヲ否定シ、法律ヲ否定スルカ格ニ、自由コンミュンノ建設ハ當然理論上天皇制廢止トナリ、特ニスローガンヲ掲ケナクトモ左様ナルコト、ナル次第ナリ私等ハ革命運動形態ヲ分散聯合組織ノ自主行動ニ營キ、農村ヘノ無政府主義思想ノ浸潤ヲ通シテ先ツ自給自足、自治協同ノ經濟的政治的行動ヲ展開シ、此ノ實踐ヲ全村運動ニ誘導シ、アナーキ革命ニ動向付ケ、發起單位タル各地理的區劃(一縣一郡一村等)ノ緊密ナル連絡ニ依ル同時發起ニ迄昂揚シ、各地理區劃ニ自由村落即チ自由コンミュンヲ建設シ、各自由村落ノ自由聯合ニヨリ建設的暴力ニヨリ現政治權力等一切ノ強權、現經濟機構ヲ廢滅シ、革命ニ依ツテ自由コンミュンノ理想社會ヲ建設スヘシト爲シ、之カ農村

青年社ヲ創立シテ夜國體ノ革新、私有財産制度ノ否認ヲ目的トスル結社ヲ組織シタルモノニシテ、私ノ起訴狀ハ敍上ノ如ク訂正サルヘキモノナリ、農村青年社ハ前敍ノ如ク昭和六年二月十二日頃私、鈴木、星野、之ニ八木カ加ハリ前敍ノ目的運動方法ノ下ニ結成セラレタルモノニシテ、同月二十日頃第二回會合ニ於テ星月カ加入シ次テ田代儀三郎、和佐田芳雄、平松秀雄及金子廣只カ加入シタル旨ノ供述狀

(三) 被告人鈴木靖之ノ當公廷ニ於ケル私ハ農村ノ疲弊困憊ノ狀ヲ現シク假設シ、農村解放ニ付判示ノ如キ意見、確信ヲ持

裁判所

キ、當時農事ノ運動方法等ニ不滿ヲ懷キ、自由人社ニ依リ同志ヲ糾合シ、尙昭和五年八月頃「農村青年に訴ふ」ト題スルパンフレットヲ出版シ、農村解放ヲ提唱シ居リタルカ昭和五年十二月末在京無政府主義者大會ニ於テ無政府主義ニ依ル農村運動ノ急務ヲ叫ビタル處ヨリ、八木あきヲ捕シ宮崎早ノ知ル處ト爲リ、尙私ト星野幸二トハ豫テヨリ數知ノ間柄ナリシ爲、判示日時場所ニ於テ會合協議シタリ、同日協議決定シタルコトハ整理サレバ結局判示ノ如キ運動形態及目的ヲ有スル結社農村青年社ノ組織ト云フコトニナルカ、農村青年社ノ直接ノ目的ハ自由コンミュンヲ建設スル

コトナル故、我國ノ革新、私有財産制度ノ否認ト云フコトハ當然附隨シテ起ル問題ナリ、八木ハ右會合ノ際賄ノ方モ遣ツテ居リ其ノ席ニ居タリ居ナカツタリ致シタル旨ノ供述

裁判所

(四) 被告人鈴木靖之ニ對スル被害第三、四回訊問調書ヲ據シ、私カ昭和五年八月頃出版シタル「農村青年に訴ふ」ハ判示ノ如キ趣旨ノ農村解放原理ヲ提唱シタルモノナリ、昭和六年二月中旬頃判示場所ニ於テ私ハ宮崎及星野ト共ニ會合シ判示ノ如キ基本的策地事項等ヲ協議決定シ、判示ノ如キ運動形態及目的ヲ有スル結社ヲ組織シタルカ、八木あきハ其ヲ入レタリ、賁物ニ行ツタリ致シタル爲其ノ席上ニハ一貫シテ居ラレリキ、右會合ニ於テ私共ニスレハ歴史のナル革命實行ノ組織ヲ持チタルモノニシテ、詰リアナーキズム革命ヲ目的トシ目主分散組織ニヨル半非合法ノ政治結社ヲ創立シ、農村ヲ中心ニアナーキズム思想ヲ啓蒙シ農民ニ自給自足、自治協同ヲ現實生活ニ當嵌メツ、將來理想社會タル自由コンミュンヲ建設スル爲今後ノ積極的協力ヲ誓ヒタル認ニシテ、其ノ後日時ハ判然セサルモ、右結社ヲ農村青年社トシ、樹開紙名ヲ農村青年ト命名シタルカ、農村青年社其ノモノハ第一回會合ニ於テ決定シタルモノナリ、而シテ農村青年社ノ本質ハ其ノテーゼトモ釋スベキ私ノ手記「自

治民約」ニ詳記致シタルカ、之ヲ端的ニ申セハ農村青年社ハ建設的暴力ヲ持チ日本ニ於ケル天皇制ヲ含メテノ一切ノ權力ヲ否定シ、私有財産制ヲ否認シ以テ矯正アナーキーノ理想社會タル自由コンミュンノ確立ヲ目的トスル秘密ナル自主分散ノ聯合組織ナル旨ノ供述記載

(五)被告人鈴木靖之ニ對スル辯護第七回訊問調書中、私ハ昭和六年二月中宮崎縣等ト農村運動方法ヲ協議シタル結果、運動形態ヲ分散聯合組織ノ自主行動ニ置キ、農村ヘノ無政府主義思想ノ浸潤ヲ通シテアナーキー革命ニ動向付ケ、自主自治、自給自足ノ實踐タル全村運動ニ誘導シ、發起單位タル

裁判所

各地理的區劃ノ緊密ナル連絡ノ下ニ所謂建設暴力ヲ以テ同時發起ニ迄昂揚シ、都市無政府主義者ヲシテ都市燒却ノ役割ヲ演セシメツ、各地理區劃ニ自由村落ヲ建設シ、各自自由村落ノ自由聯合ニ依リ現政治權力等一切ノ強權及現經濟秩序ノ敗壞シタル理想社會ヲ建設スル事ヲ協議シ、次テ其ノ後間モナク同年二月中ニ開カレタル會合ニ於テ組織結社名ヲ農村青年社ト命名シタル事ニシテ、畢竟之ハ我國體ヲ變革シ、私有財産制度ヲ否認セントスル處ノ結社ナリ、農村青年社力從來ノアナーキーズム運動ト異ナル點ヲ簡明ニ申セハ從來ノアナーキーズム運動力暴力革命手段ニ依リ自由村落

ヲ樹立シ其ノ自由聯合ニ依ル無政府共產主義社會ノ實現ヲ目的トスルモノナルコトハ勿論ニシテ、農村青年社モ之ニ對リハナシ、農村青年社力從來ノアナーキーズム團體ト異ニスルノハ從來ノ暴力革命、即チ先ヅ現社會ヲ破壞スヘシトノ單ナル破壞主義ノ暴力ニ非スシテ建設ノ爲ノ破壞ニアル點ナリ、次ニ從來ノ都市集中主義ノ運動ヲ農村ヘノ自主分散聯合組織ヲ採リタルコトナリ、更ニコンミュンノ現實性ヲ認メタルコトニシテ即チ運動ノ中心ヲ農村ニ採リタルコトナル旨ノ供述記載

裁判所

(六)被告人星野準二ニ對スル辯護第四回訊問調書中私ハ昭和六年一月二十日頃東京市外務台町下落合頓華目白文化村ノ八木あきノ家ニ宮崎縣ヲ訪ネ暫ク停留シ居リタルカ、同月末ニ星野二月號力出來、宮崎ノ審キタル「農民に訴ふ」ヲ讀ミタルトコロ、自分ハ其ノ宮崎ノ實踐提示ハ正シキモノト思ヒタリ、其ノ際宮崎ハ農村運動ヲ具體的ニ展開シテ見度イガ適當ナル協力者ハナカラウカト申ス故、私ハ鈴木靖之ハ豫テ農村運動ニ關心シ持チ居ルカラ鈴木ガヨカラウト申シタル爲、八木カ迎ニ登リ、二月十二、三日頃右宮崎ノアジトニ於テ鈴木、宮崎、八木、私ノ四人ニテ會合カ持タレタリ、其ノ會談ノ内容ハ結局アナーキーズム革命ヲ目的ニ自

主分散組織ニヨル半非合法ノ政治結社ヲ結成シ、農村ニ力點ヲ惜キ農民ニ目給日足、自治協同ヲ現實生活ノ上ニ反映セシメツ、將來理想社會ナル自由コンミニュンティスムノ爲今後ノ積極的協力ヲ齊ヒ農青壯力結成セラレタル次第ナリ、而シテ其ノ後二月二十日カ二十一日頃鈴木、望月、宮崎、私ノ四人力會合シ鈴木ヨリ結社名ヲ農村青年社トシ、機關紙ヲ農村青年ト題シタリ、詰り農青社主ノモノ、成立ハ二月十二、三日頃ノ會合ニテ定リ、其ノ名額ハ二月二十日頃ノ右會合ニテ定マリタル諺ナリ、都市ハ政治權力ノ最高機關ノアル處ニシテ、同質質ニ依ル經濟ノ特種的獨裁力行ハレ

農村問題

工業生産等ノ重要産業ハ凡テ都市ニ集中セラレ居リ之弊頗存社會體ヲ維持セントスル經濟的獨裁ノ府力惜カレ居ルモノナリ、故ニ都市ハ夫レ自身ノ本質トシテ自ラヲ水漬ノ獨裁者採取者トシテノ地位ヲ存續シ擴張セントスルモノニシテ、自ラ分散ヲ欲セサルモノナリ、農青運動力人獨生活ノ自由ナル發展ヲ運動セントスル政治權力ヲ打破シ、而シテ農工連帶ノ目三分散ノ經濟體ヲ實現スレモノナル限り、權力ノ變動地帶並經濟ノ獨裁地帶タル都市ハ全的ニ徹底的ナル潰滅ヲ期サネハナラヌモノナリ、農青運動ニ於ケル都市潰滅ノ運動ノ農村ニ於ケル建設ヲ促進セシムル力爲ニモ故

ニ現實ニ於テ自ラヲ潰滅セントスル都市機關ノ潰滅ノ爲ノ闘争力都市ニ居住スルアナーキスト自身ニ依リ自主的ニ展開サレネハナラヌモノテアリ、又農村ニ於ケル自給自足ノ經濟闘争力進展スレハ必然的ニ都市ニ於ケル強權ト衝突ヲ來タヌ諺ナリ、サレハ農村ニ於ケル革命ノ爲ノ一齊蜂起力アレハ當然都市無政府主義者ハ都市ノ權力機關等ノ機關ヲ行ヒ都市ノ潰滅ヲ圖リ都市モ亦地方ノ一コンミニュントシテ分散スヘキ役割ヲ果サネハナラヌ諺ナリ、第一、二四ノ會合ニ於テハ我々アナーキズム運動ハ黒船ノ都市重砲ヲ排シテ農村ヲ震盪シ、先ヅ農村へ自主分散ノ運動形態ヲ以テ自

農村問題

主自治、自給自足ノ無政府主義思想ヲ浸透シテアナーキ革命ニ動向付ケ、之ヲ全村運動ニ誘導シ、而カモ統紀單位タル地理的區劃ヲ右運動形態ニ依テ作ラシメ、更ニ其ノ地理的區劃ノ緊密ナル連絡ニ依テ聯合組織トナシ、自主自治、自給自足ノ實踐運動力或一定高度ニ達シ、夫レカ爲ニ紀ル強權トノ必然ノ衝突ヲ生起シタル場合ニ全村農民ヨリ湧起スル右ノ建設ニ於ケル破壞ナル暴力ヲ以テ同時蜂起シ革命ヲ成就センコトヲ協議シタルモノナリ、而シテ革命ヲ成就センカ爲ニハ前述セシ都市ノ燒却等ハ必然ニ紀ルコトナルカ、第一、二四ノ會合ノ際ハ前述シタル如ク先ヅ農村へノ

働キカケノ運動ヲ主眼トシテ協議サレタル爲都市ニ對スル運動方法等ニ付テハ協議サレザレシモ、革命ヲ成就センカ爲ニハ農村都市共ニテロノ行使ヲ爲スニ非サレバ革命ハ成就シ得サルモノニシテ、革命ヲ目的トシタル農青社ハ元ヨリ始メヨリ都市焼却等ハ究極ニ於テ豫想サレタル事ナリ、只前述べタル如ク農村運動ヲ先ニセントシタル爲ニ都市運動ノ活力出ザリシニ過ギザルモノナリ、要スルニ農村ヲ導火線トシテ農村都市一齊蜂起ニ依テ革命ヲ成就シ、既ニ自由コンミュンノ建設トナリ、其ノ自由コンミュンノ自由聯合ニ依テ自由コンミュン聯合ヲ作り我々ノ目的トシタル現政治権力等一切ノ強權、現經濟機構ノ廢滅シタル理想社會ヲ建設セントシタルモノナル旨ノ供述記載

(七) 被告人星野準ニ對スル豫審第八回訊問調書中農青社運動ハ黑曜運動ト雖ヲ異ニシ自主自治、自給自足、分散聯合組織ヲ中心綱領トシテ創立サレタルモノニシテ、運動ノ展開ハ分散聯合ノ全國的組織化ニアルカ故、單ニ機關紙ノミニ依據スルヨリ軍口地方同志トノ直接連絡ニヨルコトヲ必要トスルモノナル旨ノ供述記載

(八) 被告人星野準ニ對スル豫審第八回訊問調書中昭和六年二月十二日頃ノ協議ニ於テ吾々結成者ノ間ニ共通ノ認識、結

リ合意ノアリタルハ農青社ノ運動方法ニ關スルコトニシテ即チ運動形態ヲ分散聯合組織ノ自主行動ニ置キ、農村ヘノ無政府主義思想ノ浸潤ヲ望ミテアナキ革命ニ動向付ケ、自主自治、自給自足ノ實踐タル全村運動ニ標榜シ、蜂起單位タル各地理的區劃ノ緊密ナル連絡ニ基キ所謂建設ニ於ケル破壊ナル暴力ヲ以テ同時蜂起ニ進出^早揚シ、都市無政府主義者ヲシテ都市焼却ノ復讐ヲ演セシメツ、各地理的區劃ニ自由村落ヲ建設シ、各自田村落ノ自由聯合ニ依リ現政治権力等一切ノ強權現經濟機構ノ廢滅シタル理想社會ヲ建設スル爲ニ之カ實踐團體ヲ持ツコトニアリシ旨ノ供述記載

(九) 被告人八木あきニ對スル豫審第九回訊問調書中昭和六年二月十二日判示場所ニ於テ鈴木、星野、宮崎、私ノ四人力會合シタルカ、私ハ食事ノ事ヤ其ノ談片付又ハ屋外ノ見聞等ノ爲協議ノ座ヲ外シタリ故シタルカ、其ノ會談ノ内容等ハ結局アナキズム革命ヲ目的ニ自主分散組織ニヨル半非合法ノ政治^低組織ヲ結成シ、農村ニ力點ヲ置キ農民ニ自給自足自治協同ヲ現實生活ノ上ニ反映セシメツ、將來理想社會ナル自由コンミュン建設ノ爲ノ今後ノ積極的協力ヲ都ヒ農青社力結成サレタル次第ナリ、農青社ノ目的ハ全人類ノ解放ノ爲ニ自由コンミュンヲアナキズム革命ニ依テ建設スル

コトニアリ、而シテ自由コンミュニシハ地理的的人的經濟的條件關係ノ下ニ一定數ノ人カ一地區區劃ニ自治協同自給自足ノ生活ヲ爲ス一小社會ナルカ故ニ、アナーキズム革命ニ依テ自由コンミュニシ社會トナレハ現國家組織及資本主義組織ハ廢滅シテ了フ譯ナリ、從テ我々カ企圖シタル如ク農青社ノ運動カ成功スレハ自然天皇制ノ廢止トナリ私有財産制度ノ否定トナル次第ナリ、爰スルニ農村青年社ハアナーキズム革命ノ完行ニ依リ理想社會ヲ建設セントスル運動組織ニシテ、革命理論及其ノ實踐ヲ提シテ我國ニ於ケル政治權力天皇制ノ否定、私有財産制度ノ否定ヲ目的トスル闘争組織ナル旨ノ供述記載

(十) 被告人宮月治郎ニ對スル豫審第三回訊問調書中農村青年社モアナーキズム運動ノ團體ニシテ、純正無政府主義ノ下ニ結成サレタルコトハ鈴木、宮崎、星野等結成メンバーノ經歷ヨリ申シ當然ナリ、從テ暴力革命ニ依リ我國體ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認シ自由コンミュニシ樹立シ其ノ自由聯合ニヨル無政府共產主義社會ノ實現ヲ目的トシタル結社ナルコトハ勿論ナリ、特ニ農村青年社ヲ結成シタル所以ハ宮崎及鈴木等カ當時ノアナーキズム運動カ少數者ノ創造的テロヲ強シタル結果、アナーキストカ無暗進化シ勒レモ存在

アトナリ、運動カ委細シタル爲此ノ無暗進化ヲ一掃シ本來ノアナーキズム運動ニ戻サントシタルモノニシテ、尙從來ノ運動カ都市中心ナリシ爲、彼等ハ農村ヲ中心ニ運動ヲ展開セント企圖シ、從テ其ノ運動方法ニ付テハ地ニ付キタル運動ヲ爲スコトニ根底ヲ置キ既成組織休タル中央集權的ナル運動ノ模倣ヲ排撃シ、之ニ代ルニ地方的分散組織ヲ提唱シタルモノナリ、即チ從來ノ上ヨリトヘ又下ヨリ上ヘノピラミット型立体組織ヲ改メ、各人自由意思ノ結合ニ基ク平面体網狀組織ニヨル運動ヲ進メ、而シテ農村ヘ自主自治、自給自足ノ無政府主義思想ヲ漸次浸透シテ全村ヲ無政府主義思想ニ動向付ケ、斯クシテ強權ト衝突シタル場合ニ所謂建設的暴力ヲ用ヒ、各村カ同時ニ蜂起シ都市ヲ燒却シ以テ革命ヲ成就シ自由コンミュニシ建設セントシタルモノナリ、其ノ各村ノ同時的蜂起ヲ爲スニハ豫メ地理的區劃ニ依テ革命單位即チ縣ヲ自由コンミュニシトナル區劃ヲ確立シ自由コンミュニシヲ樹立ノ上ハ其ノ自由聯合ニヨリ網狀形ナル無政府共產主義社會カ設立セラル、譯ナリ、右ノ全村運動トカ地理的區劃ニヨル革命單位ノ確立トカ云フ事ハ右農村結成後機關紙農村青年ノ發行等ニヨリ明カニ了解シタル事ナルカ、夫レノ下地ヲ爲メ話ハ結成當初ニ平易ナル旨

華ニテナサレテ居リタルモノナリ、尙都市燃却ト云フコト
 ハ結成當時餘リ話サレザリシモ、アナーキストナル以上左
 様ナル事ハ革命ニ當然ナルコトヲ既ニ認識シ居ル事デアリ
 説明ヲ要セザル事項ナリ、安スルニ農青社ハ其ノ他ノアナ
 ーキズム團體ト究極ノ目的ハ同一ニシテ其ノ運動方法ニ付
 ナ自主分散聯合組織ニ依リ農村ヲ中心トシテ無政府主義ノ
 浸透ヲ圖リ自主自治、自給自足ノ實行タル全村運動ヲ經テ
 各村ノ同時的蜂起及都市破壊ノ暴力革命手段ニヨリ革命ヲ
 實行セントシタル處ニ相違ガアルモノナリ、而シテ農青社
 ハ先ヅ運動ノ手初メトシテ出版ニヨリアナーキズム思想ノ
 啓蒙ヲ圖リ、漸次水準ノ高マルニ次テ非合法出版物ニヨリ
 機關的機關紙ヲ發行シ又天レニヨリ地方アナーストト連
 絡ヲトリ且地方行脚ニヨリ直接連絡ヲ強行シ斯クシテ狀勢
 ノ最も逼迫シタル地方ニ對シ力ノ集結ヲ圖リ武裝蜂起ニヨ
 ルアナーキズム革命ヲ完行セントシタルモノナリ、農村青
 年社ノ構成員ハ宮崎、鈴木、星野、八木、小野、私ノ六人
 ノ外ニ後ニ田代三郎、村上義雄コト和佐田芳雄、平松秀
 雄力加入致シタル旨ノ供述記載

(十) 被告人田代三郎ニ對スル豫審第三回訊問調書中昭和六
 年二月頃宮崎星野及星野準二下阪直後農村青年社ナルモノヲ

結成シタルコトヲ聞キタルカ、其ノ説明ヨリスレハ農村青
 年社ノ目的ハ他ノ無政府主義團體ト同様現在ノ國家社會ヲ
 倒潰シ無政府共產主義社會樹立ヲ目的トスル思想的革命團
 體ニシテ、單ナル出版社ニハアラス、即チ自由コンミュン
 建設ヲ目的トスルモノナル故日本ニ於テ甲セハ天皇制廢止
 私有財産制度ノ否認トナル旨ノ供述記載

(十一) 被告人和佐田芳雄ニ對スル豫審第三回訊問調書中農青社
 ハ自給經濟ノ確立ニヨリ資本主義經濟機構一切ノ潰滅ヲ爲
 シ一切ノ政府の權力ヲ無力化セシメ、農工合衆ノ自由コン
 ミュンヲ意識スル革命の秘密團體ナリ、農青社ハ積極的の實
 踐スローガントシテ都會物質ノ不買同盟、農村物資ノ不賣
 同盟、貢稅ノ意識的消滅同盟ニヨル土地ノ事實的收用自主
 自治的自由聯合ニヨル自給經濟（共產制）ノ確立等ヲ強調
 シ、從來多クノ革命運動力採用シタル觀念的政治スローガ
 ン帝王制否定（君主制ノ否定）革命的政治行動ニヨル行政
 機關ノ破壊、生産機關ノ收用ト自治管理ノ積極的スローガ
 ンハ取上ゲザルモ、之等ノスローガンハ資本主義的組織ノ
 部分的要素デアリ、全体ノ一部分ヲ構成スル政治形體ニシ
 テ今日ノ資本主義的權力ノ一切ハ資本主義的搾取經濟ノ上
 ニ立ツモノナル故、農村ノ自給自足經濟ノ事實的樹立ニヨ

リ都市の資本主義採取機構ハ破綻ヲ招來スルモノナルガ故
ニ、斯ノ如キ觀念的政治スローガンハ特ニ必要ト致サル
モノナリ、勿論農青社モ資本主義的組織ノ部分的政治形體
ナル帝王制行政機關軍隊等ノ究極的否定ハ致スカ夫レハ凡
有政府の權力ノ一部分ヲ爲スモノデアリ、之等部分のナル
スローガンハ消極的デアリ又觀念的運動ノ領域ニアルモノ
ナリ、而シテ帝國制否定、私有財産制否定等ノスローガン
ハ經濟革命ノ徹底化ニヨル究極ノ問題トシテ招來サレルモ
ノナリ、之ヲ要スルニ農青イズムノ實踐理論ノ發展過程ヨ
リ自給經濟ノ確立ニヨル自主自治ノ社會形態ヲ實現スルニ

裁制川紙

ハ現在日本ノ資本主義經濟機構ノ一部分ヲ爲ス私有財産制
度ノ撤廢ハ勿論包含サレルモノニシテ、農青イズムノ徹底
化シタル實現ニ依テ現在ノ我國ノ政府の權力ハ資本主義的
採取經濟ノ破壞ニ依テ停止セシムルコトガ出來茲ニ現在ノ
日本ノ國體ハ變革サレ私運ノ希望スル無政府共產制ノ社會
トナル旨ノ供述記載

(十三)南滿鐵發松ニ對スル治安維持法違反事件ノ記録中南滿鐵
發松ノ豫審第三回訊問調書中農青社ノ本質ハ無政府共產主
義ノ理想社會ヲ建設スル爲革命ノ敢行ヲ目的トシテ居リ、
當面ノ目標トシテ自主自治、自給自足ノ確立ヲ目差シ、組

織的ニハ同志ノ横ノ連絡即チ自主分散セル同志ノ自由聯合
又ハ結合ノ組織、即チ地壇の區劃ヲ地方的ニ全國的ニ張り
網ラス事ナリ而シテ目的タル自主自治、自給自足ヘノ發展
ノ爲ニ障礙トナルヘキモノヲ廢滅シ又ハ必要ナル發展ノ爲
ニ障礙トナルヘキモノヲ廢滅シ又ハ必要ナル機關ヲ收用ス
ル爲アナーキストノ暴力革命ヲ敢行セントスル處ノ自主分
散聯合ノ結社ナリ、從テ現在日本ニ於ケル一切ノ權力諸制
度ヲ打倒スルト共ニ財産ノ私有制ヲ廢滅セントスルノ意圖
ヲ有スルアナーキストトキハ秘密結團體ナリ、君主制カ權力
組織ノ一部トシテ打倒ノ目的内ニ含マレルコトハ論ヲ俟タ

裁制川紙

ヌ、而シテ共產黨乃至ボルシェビキ的運動組織ハ常ニ強
權主義デアリ、中央集權的縱ノピラミット系ノ組織ナルガ
農青社ノ組織ハ常ニ自治的同志ノ自由合意ニ依ル權力ナキ
弱ノ緊密ナル連絡乃至結合ニ依ル廣ノ網狀型ノ組織ナリ、
從テ農青社ハ單ニ紙關係「農村青年」ヲ發行スルニ、三ノ
同志ノ新聞發行所ヲ指シ云フモノニ非スシテ新聞發行社タ
ル農村青年社乃至農村青年紙ヲ領シテ連絡結合セルアナー
キストノ全國的分散組織其ノモノヲ指スモノナリ、アナー
キストカ權力ヲ否定スル事ハ其ノ運動ノ途上ニ於テモ同一
ニシテ、即チ權力力次ノ目的社會タル自由コンミュンヘン

裁判用紙

裁判用紙

因子的要素トモナルヘキ事ヲ虞ル、爲難對ニ之ヲ排撃ス、故ニ新聞社タル農青社ハ自主分散組織ノ指導部ニ非ヌシテ單ニ運動方針ヲ全國同志ニ傳ヘ運動行動藝術等其ノ方向ヲ示唆シ又ハ同志間ノ緊密ナル連絡ノ爲ノ出版活動其ノ他一部ノ役割ヲ負擔シ居ルニ過キサルモノニシテ、農青社ニ於テ出版活動等ニ從事シ居リタル鈴木清之等同志ハ全國的自主分散組織ノ一區劃ト解スヘキモノナリ、而シテ農青社加入ニ付テハアナーキズムノ一般ニ從テ別ニ形式ハナク農青社ヲ認識シテ其ノ運動ニ從事スル決意ヲ表明スレハ加入アリタル譯ナリ、尙農村力同時的ニ蜂起シタル場合ニ都市アナーキスト力都市燒却ノ暴力革命ニ出テ工業分散運動ヘト方向付ケル運動ヲ爲スコトハアナーキズム運動ニ照シ云フヲ要セサルコトナリ、之ヲ要スルニ農村青年社ハ自主分散聯合組織ニ依リ我國農村ヲ中心トシテ無政府主義思想ノ浸透ヲ圖リ自主自治、自給自足ノ實行タル全村運動ヲ經テ各村ノ同時的蜂起及都市燒却ノ暴力革命手段ニ依リ我國休ラ變革シ私有財産制度ヲ否認シ自由村落即チ自由コンミュンヲ樹立シ其ノ自由聯合ニ依ル無政府共產主義社會ノ實現ヲ目的トスル秘密結社ナル旨ノ供述記載

十四 判示冒頭記載ノ事實中被告人等ノ信託シ居リタル無政府

主義カ判示ノ如キ社會革命思想ナル點ノ認定ニ付舉示シタル前記各證據

ヲ綜合シテ之ヲ認メ

判示第二ノ事實ハ

(一) 被告人八木あきニ對スル豫審第三、四回訊問調書ヲ讀シ判

示第二(一)ノ事實ト同意旨ノ供述記載

(二) 被告人望月治郎ニ對スル豫審第二、四回訊問調書ヲ讀シ判

示第二(二)ノ事實ト同意旨ノ供述記載

(三) 被告人田代謙三郎ニ對スル豫審第三、四、五回訊問調書ヲ

讀シ判示第二(三)ノ事實ト同意旨ノ供述記載

(四) 被告人和佐田芳雄ニ對スル豫審第三、四、五回訊問調書ヲ

讀シ判示第二(四)ノ事實ト同意旨ノ供述記載

(五) 判示第一ノ事實認定ニ付舉示シタル前記各證據

ヲ綜合シテ之ヲ認メ

判示第三ノ事實中

(一)ノ事實ハ

(一) 被告人鈴木清之ノ當公任ニ於ケル判示第三(一)冒頭記載ノ事

實、(3)(8)(11)(12)ノ各事實ト同意旨ノ供述

(二) 被告人宮崎是ニ對スル豫審第五回及第七回訊問調書ヲ讀シ

判示第三(一)冒頭記載ノ事實及(2)ノ事實ト同意旨ノ供述記載